

平成 25 年 9 月終了  
修士(学術)学位論文

海外において事業を成功させる  
起業家の熱意形成プロセスの考察

Enthusiasm formation process of entrepreneurs who can  
succeed in business in abroad

平成 25 年 6 月 14 日

工学研究科 基盤工学専攻 起業家コース

学籍番号 1135110

矢崎 真理

Mari Yazaki

## 要旨

日本は1990年代の前半までは高度経済成長をし、企業の業績も個人経済力も上昇し続けた。しかし、バブル崩壊後は一転して事業縮小、人員整理のために大量のリストラが起こるなど厳しい時代に突入、もっとも厳しい時代を乗り越え現在は徐々に経済は回復傾向である。今後は高齢化と人口減少に伴い国内市場が縮小するとも言われており、日本国内に留まらず海外へ進出することは日本経済の活性化と発展に不可欠ではないかと考えられる。

企業・組織の最小単位は「個人」であり、海外展開するにあたっては必ずそれを行う「個人」が存在する。実際は現場での彼らの努力や頑張りが海外展開が成功するかどうかを左右している。

そこで本論文ではまず、海外進出に関する先行研究から海外進出する際の成功要因のレビューを行い、組織としての成功要因を個人としてクリアするための資質がどのように形成されていったのかを明らかにすることを目的としている。個人として必要となる資質のうち本研究で着目したものは以下3つである。

- I 固定観念にとらわれない柔軟な思考の形成
- II 人との出会い・つながりを重視できる力、コミュニケーション能力の形成
- III 失敗を恐れずに判断・決断する力、それを行動する力の形成

研究方法としてはライフヒストリー法を用いたインタビュー調査を行い、対象者の、幼少期からの長期間にわたる人生史を聞き取り、分析を行った。

結果として、固定観念にとらわれない柔軟な思考は幼少期の生活環境と親との関係が重要であり、人との出会い・つながりを重視できる力、コミュニケーション能力の形成は、人の助言や提案を拒むことなく素直に受け入れることで成功体験につながり経験を積んでいくことで身につけていく、失敗を恐れずに判断・決断する力、それを行動する力は、自信や大きな興味を持って判断、決断することを繰り返していくことが成功体験につながり記憶されて資質として備わったということがわかった。

Japan acquired high economic growth till the first half of the 1990s, and the achievements of a company and individual economy power continued going up. However, after collapse of the 'bubble' economy that goes into severe times of restructuring for business contraction and personnel reduction takes place -economy situations have shown sign of gradual recovery. The expected shrinkage of the domestic market implies that it is necessary that Japanese companies to enter foreign markets in order for the development of Japanese economy.

Any organizations entering into foreign markets consist of individuals. Thus, whether the organizations can success or not is strongly dependent on the competence of the individuals.

Therefore, the present paper reviews earlier studies that aimed to identify factors enabling companies to successfully enter into foreign markets, and then identify what kinds of competences are required for individuals in such companies.

Then interview surveys were conducted with individuals who contributed to the success in the companies' entering into foreign markets. The life history approach was adopted and it was investigated how the identified competences were acquired in their lives.

As a result, formation process for the competencies of the following was clarified.

1. Flexible thinking
2. The communicative competence
3. The competence to judge and decide without fear of failure

Practical implications of the findings are also discussed.